第 56 回日本神経学会学術大会全体アンケート結果

I.　アンケート概要

従来のアンケートは、会場での記入式であったため、複数回答も可能であり、また回収率も高くなかった。今回は、回収率を向上し、より多くの会員の意見を集約するために、大会終了後 1 週間 Google のシステムを使い Web 入力にて行った。本システムの利点は、大会終了後に行えること、紙媒体から入力の必要がないことである。デメリットは、同一人物による複数回入力が避けられないことである。この問題は会員番号の入力により避けられるが、匿名性の担保が問題となるため今回は見送った。また非会員の当日参加者はアドレスを得ていないため、アンケート依頼のメールを送付できていない。また実際には参加しなかった会員が「参加した」とする虚偽は排除できない等の点があげられる。

総数　1164 (総参加者の 16.7%)

性別　男性 830　女性 334

国籍　日本　1115　海外　46（全参加者の 24.7%）

会員 904（会員全参加者の 19.8%）　非会員 259

年齢構成 30 歳以下 7.7%, 30-39 歳 28.8%, 40-49 歳　28.2%, 50-60 歳　24.6%, 60 歳以上　10.7%.

会員医師の所属　病院勤務 51.4%　大学 38.7%　開業・診療所 5.7%　研究所 4.2%

職種内訳毎の実数：

医師	896	学生	9
理学・作業療法士	47	医療ソーシャルワーカー	8
研究者	42	臨床工学技士	5
看護師	32	会社員	5
製薬会社	30	管理栄養士	4
言語聴覚士	15	保健師	3
臨床検査技師	13	企業	3
後期研修医	12	初期研修医	2
薬剤師	12	介護福祉士	2
臨床心理士	10	診療放射線技師	2

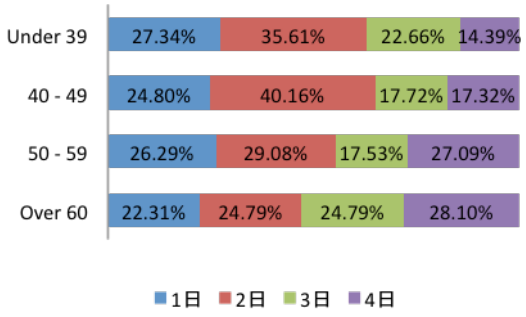
II.　参加日数について

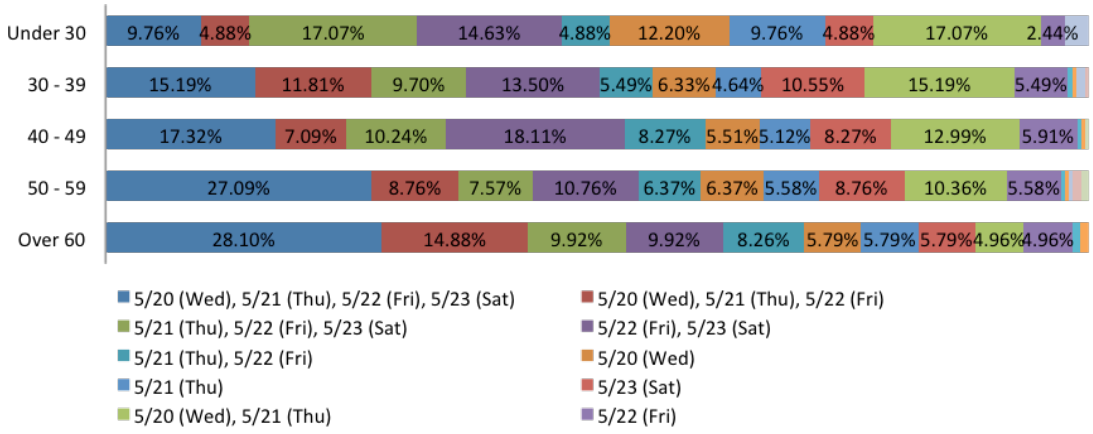
参加日数は 4 日間、もしくは前半後半 2 日間に分けての参加者が多い

5/20 (Wed), 5/21 (Thu), 5/22 (Fri), 5/23	250	5/23 (Sat)	97
5/22 (Fri), 5/23 (Sat)	146	5/20 (Wed)	74
5/20 (Wed), 5/21 (Thu)	134	5/21 (Thu), 5/22 (Fri)	72
5/20 (Wed), 5/21 (Thu), 5/22 (Fri)	130	5/22 (Fri)	68
5/21 (Thu), 5/22 (Fri), 5/23 (Sat)	107	5/21 (Thu)	58

上記はアンケートでの参加日を示す．4 日間すべて参加された方が多く、次に前半、後半の 2 日間。単独では教育関連がある土曜のみの参加者も多い．各日の延べ人数では、611, 762, 785, 622 であった。参加者は概ね分散した。

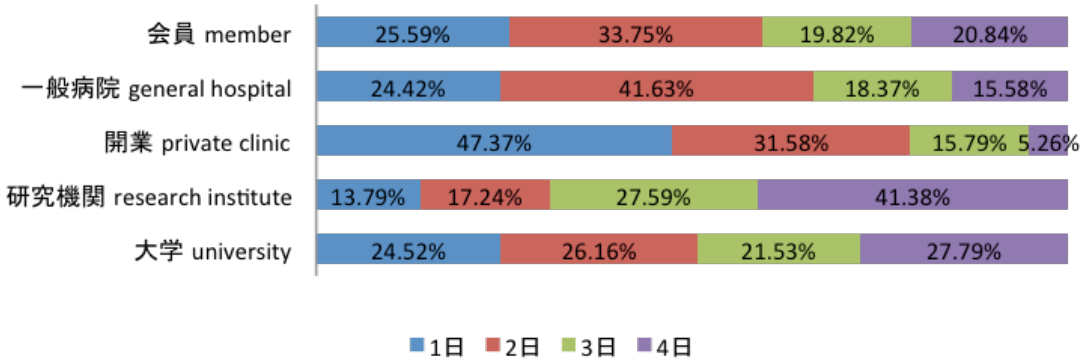
会員の年齢別での参加日をみると、若年者ほど 4 日間参加が少ない(右図　左数字は年齢　青は 1 日参加者）。40 代以下では 1 日のみの参加が 27.3%であり、最も多いのが 2 日間の 35.6%である。50 歳未満 40 歳以上では 2 日間の参加層が最も多い。50 歳以上では 2 日間が減少し、4 日間参加が増える。60 歳以上で逆転する。下記は年齢毎の参加日である。これでも同様の傾向が認められる。

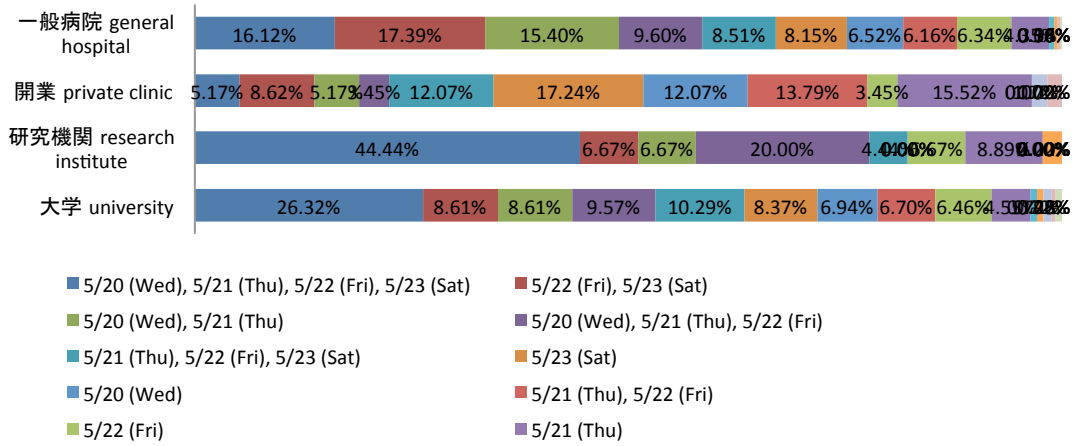




病院勤務医は 2 日間、開業医は 1 日間参加が多い

所属別では大きな差がある。一般病院の勤務医は 2 日間、次に 1 日のみの参加が多い。大学所属医では 4 日間の参加が 28%を占めるが、ほぼ 4 等分されている。一方開業医では全 47%が 1 日のみの参加であり、土曜、木曜のみの参加が多い。一般病院勤務者は、2 日間毎に交代して参加していると推察される。全会員でもこの 2 日間出席者が最も多く、次が 1 日のみの出席である。2 日間でも十分なプログラムを提供するという視点も重要と思われる。

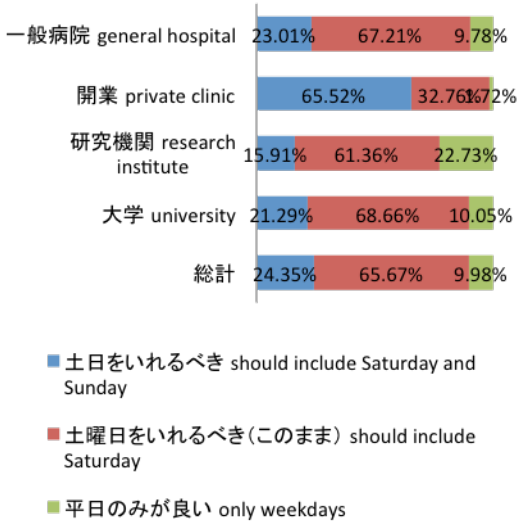




本年は、細目を昨年の演題数から算定し、ポスターからシンポジウムまで同一の分野については、同じ日に配置した。また基礎系を前半、臨床系を後半に配置した。脳梗塞など頻度の高い疾患は全体に配置し，参加者の分散を図った。また教育講演は例年通り前半と後半に分けた。結果としては、前半、後半に参加者を誘導することができたが，弊害としては、同じ所属機関から同様の疾患に関して多数の演題を提出した場合、同じ日に発表者が集中してしまうという問題があった。

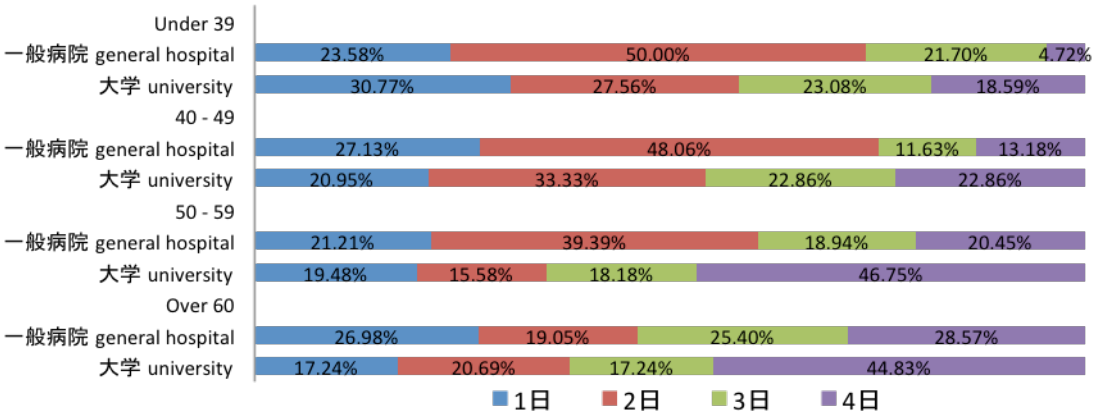
開業医の 65％が日曜の開催を希望

開業医は平日に休みを取りづらい。これを反映し、今後の学会期間の希望に対しては、開業医の 65％が日曜の開催を希望しており突出している（右図）。今後の検討事項である。



大学所属 40 歳以下は 1 日のみの参加が多い

参加日程について一般病院と大学で、年齢毎に比較した（下図）。

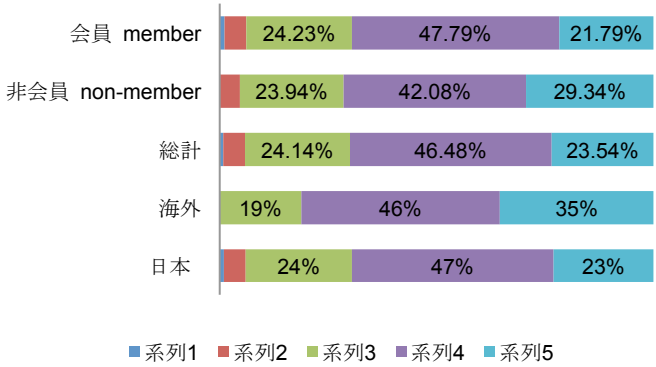


39 歳以下では、大学病院と一般病院で、4 日間と 2 日間の参加割合に差がある。大学病院では 4 日間の参加が約 19％に対して、一般病院では 5％に留まった。大学病院のこの年齢層は大学病院所属の他の年齢層、一般病院所属の方と比較して 1 日のみの参加者が最も多かった。大学所続のこの年齢層が何故長期間参加できないのか、検討が必要である。一方 50 歳以上の大学病院勤務者では 4 日間参加者が著明に増加して、45％が 4 日間参加している。

III.　プログラム構成について

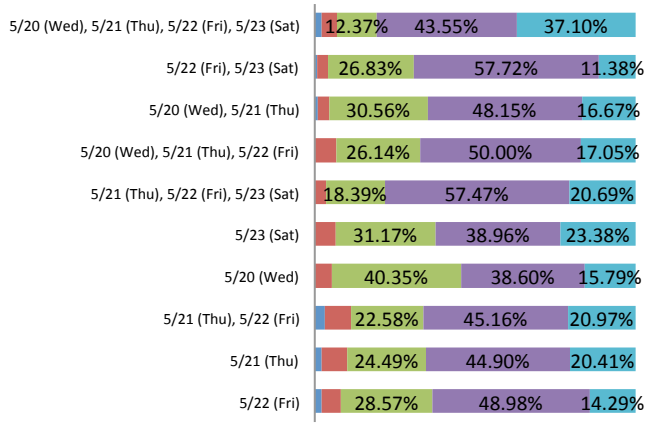
参加者の 7 割が積極的に満足と評価した

右側に行くほど満足度が高い評価となっている（系列 5 が最も満足度が高く、系列 1 が最も低い）。全体の 7 割弱が満足、また海外参加者の 35%が大変満足という結果であった。

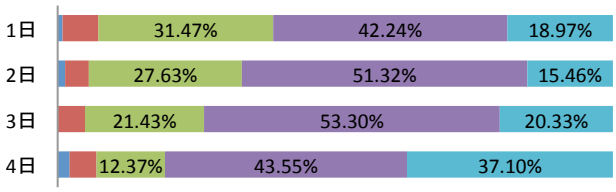


参加日数と満足度は関連する

会員の参加日数毎の満足度について、右記のグラフにまとめる。上から参加者が多かった順に並べている。最も参加者の多かった全日程参加者の 4 割弱が大変満足している。これに継ぐのが後半の 3 日間の参加者。最も満足度が低いのは水曜のみ、若しくは 2 日間の参加者である。比較的人数の多かった 2 日間の参加者の満足度は他に比して低い。

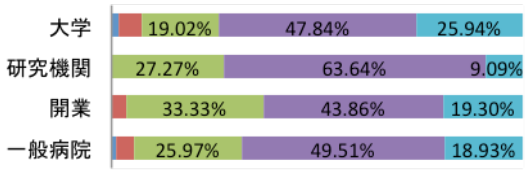


これを参加日数毎に示したものが右である。参加日数と満足度が関連していることが解る。

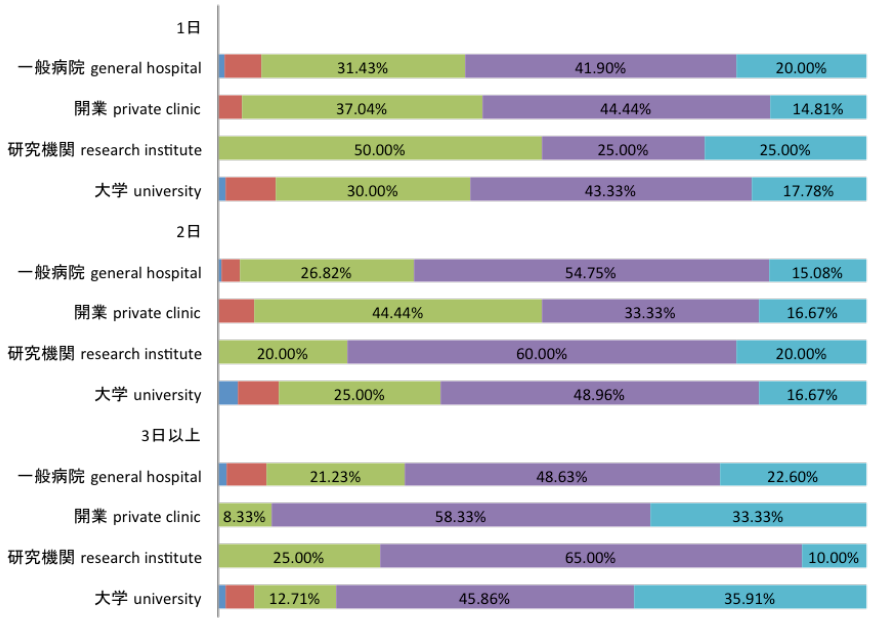


開業医の満足度の低さは参加日が限られていることに関係する

医師の所属別の満足度では開業医の満足度が最も低く 63%、大学関係が 73%であった。これは参加期間との関連が推察される。実際、各所属



機関毎に満足度を参加期間毎に見たものを右図に示す。



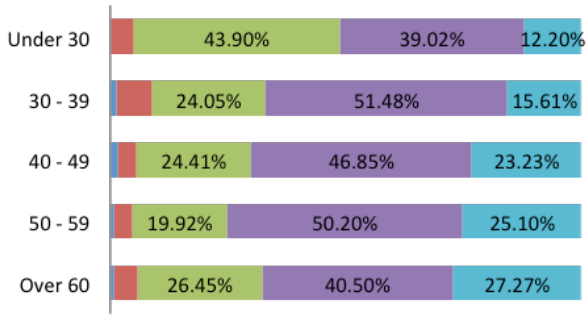
参加日数が同じ場合、開業と大学では満足度に大きな差がない。

開業医でも 4 日間参加すれば十分な満足度が得られる可能性があるが、現実的に開業医に 4 日間の参加を促すのは困難である。

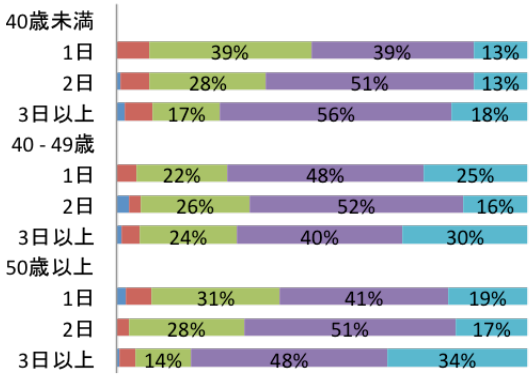
所属機関ごとでは、一般病院と大学所属医師との間には 3 日以上の参加で 10%くらい、極めて満足度の強い群の比率に差が認められ。この群のニーズに乖離がある可能性がある。

若年層では満足度が低い

30 歳以下の満足度が低い。これも参加日程との関連が推察された。参加期間が短いほど満足度は低い傾向にあり、また若手ほど参加期間が短い傾向にある。



右に、参加日数毎、年齢毎のの満足度を示す。結果は、40 歳未満では参加日程が長いほど高い傾向はあるが、3 日間以上参加しても大変満足な群は 18%と、他の年代より低い。この点は開業医とは異なる点であり、参加日数ではなく、この年代のニーズを満たしていない可能性がある。今後、この年代のニーズ



を考慮する必要がある。しかし、満足まで入れると、参加期間と満足度には関連があり、この年齢層の長期間参加を可能とするような配慮が必要であろう。これに比して、中堅層では、参加機関と満足度は関連しない。

若年者の支持率は所属機関で差がない

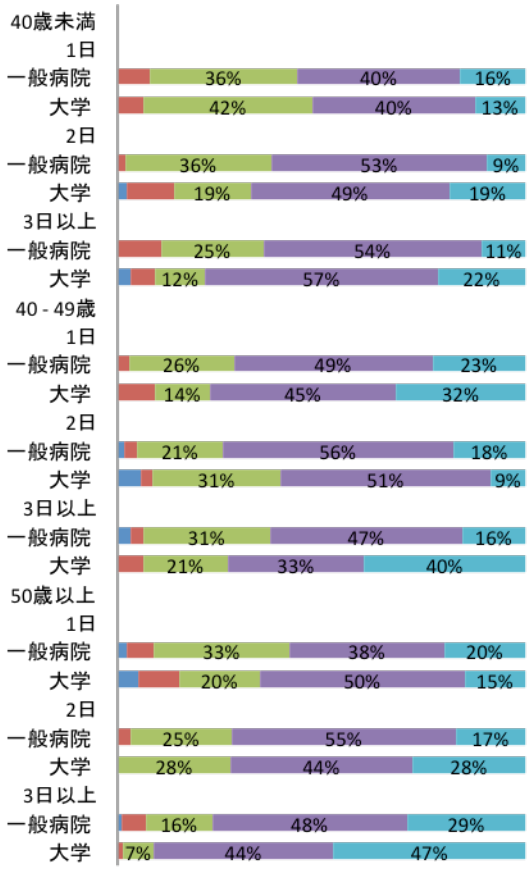
この差が所属機関の違いによるかを検証するために、一般病院と大学病院間にて比較を行った(右)。年齢層毎に、参加日数、所属機関別に満足度を示している。

大学所属医師の方が若干満足度は高いが、いずれの所属機関でも若年層からの支持率は低い。最も支持の低い層は、40 歳未満の大学所属で 1 日のみの参加層であり 53%の支持であった。

一般病院では 2 日間の出席が最も多かったが、40–49 歳の層では約 7 割の支持を得ていた。

一方 40 歳以上で、3 日以上出席した大学関係者からは、その 4 割以上から高い評価を受けた。特に 50 歳以上では、91%の支持を得た点は特筆すべきである。

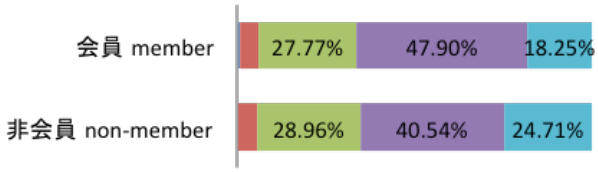
結論として、満足度は参加期間、年齢、所属先と関連し、ベテラン、大学、長期間参加の群で評価が高い。開業医、若年層のニーズの掘り起こしが必要かもしれない。



IV　テーマについて（臨床・基礎のバランス、新規性など）

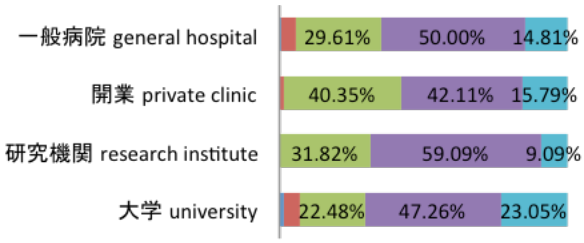
テーマは 7 割から積極的に支持された

会員、非会員共に 7 割弱の会員から支持を得た（右）。



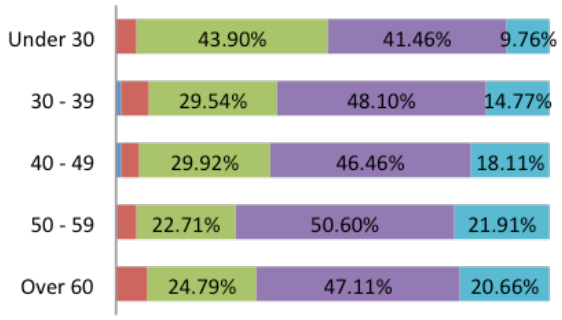
医師の所属別では、開業医の支持が若干低いが，何れの所属先からも

65-70％の支持を得た（右最上）。



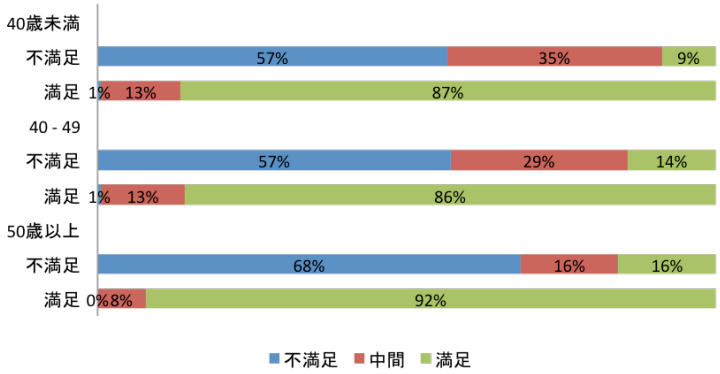
年齢が高くなる毎に高支持

年齢別では若年層から約５割の支持であるが、年齢を経る毎に支持が大きくなり、50 歳以上では約 7 割から支持を受けた。不支持率は 7％以下であった(右２番目)。



プログラム構成に不満足であった群はテーマ選びも不満足

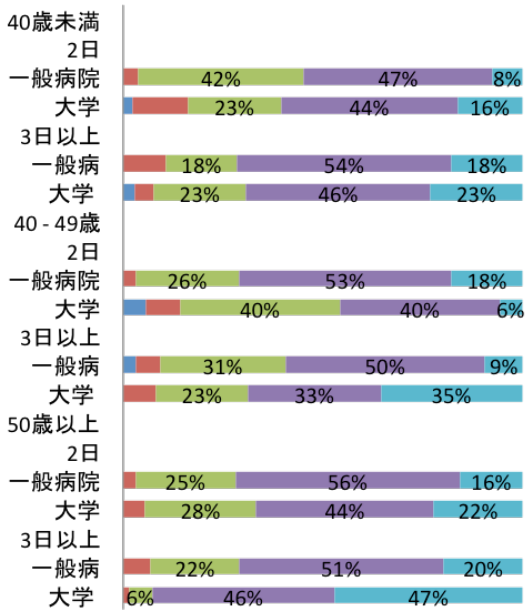
プログラム構成に対する満足度と、比率との関係をみたものが右３番目の図である。年齢層毎に、プログラムに対して、不満足、満足であった群と、テーマ選びに対して、不満足、満足であった群を比較している。プログラムに対して不満足であった約 6 割が、テーマ選びにも不満を持っていることが示された。この比率は年齢層で大きな変わりはない。



大学病院の 40 歳以上には高支持

全体のテーマ配分を見るためにはある程度の期間の参加が必要と考え、2 日間参加した方と、3 日間以上参加した群に絞って、テーマ選びに対する評価を比較した。（右図）

今回のテーマ選びは大学病院の 40 歳以上の医師には高い支持があり、一般病院所属医師との間にとらえ方の差がある。2 日間参加群では 7 割から支持された。最も評価が低いのが 2 日間の大学所属の 40-49 歳、と 2 日間

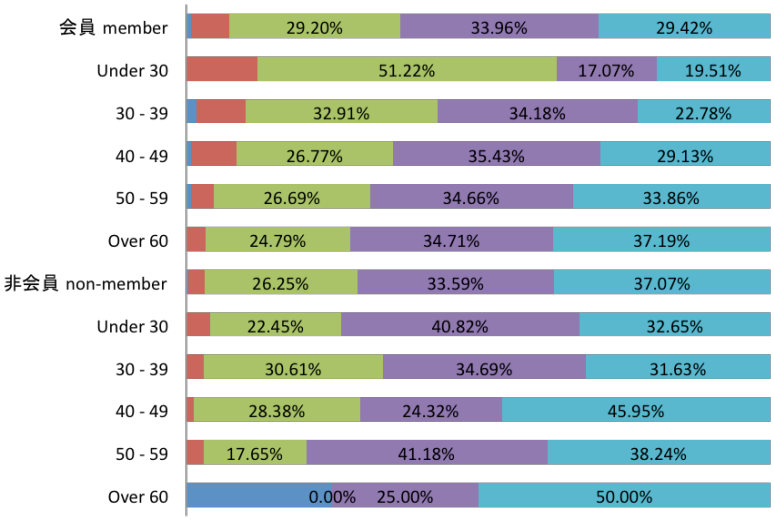


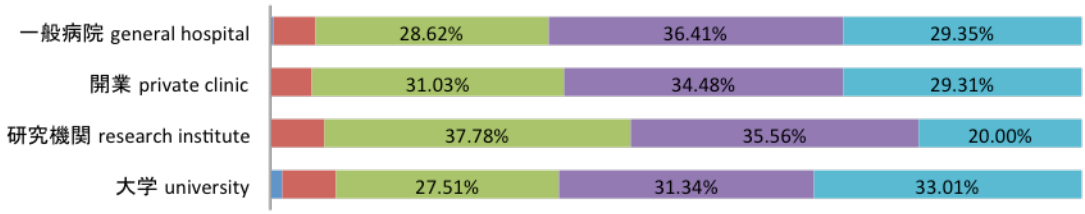
の一般病院所属の 40 歳未満層である。全体的に若年の一般病院層の高評価群が低く、テーマ選びの内容に、一般病院医師と、大学所属医師との間の差がある可能性がある。特に 40 歳以上の大学所属医師とその他との違いが疑われる。

V.　社会の中の神経学”関連の話題の有用性

社会の中の神経学は 65％から積極的な支持を受けた。

これについては、年齢を経る毎に高い評価を受け、会員の 63％、非会員の 70％から有用との評価を受けた。年齢構成毎の評価は上の通りである。会員より、非会員で高評価であり、会員の 30 歳以下で評価が低い。しかし、中堅層以上では 3 割以上で高評価であった。所属機関毎の差はなく、ほぼ同じ 65％程度の支持を受けた。



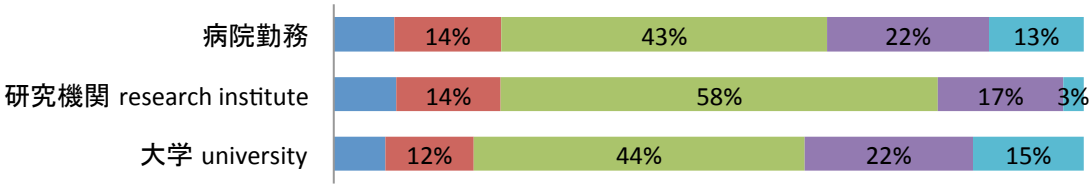


VI.　教育関連機関への参加を依頼する手紙の効果

4 割弱から積極的な効果を評価

今回は，教育関連施設からの参加を容易にするために，事前に教育関連機関に参加を依頼する手紙を送った。この有用性について、所属機関毎に検討した。その結果、病院、大学所属医師の

4 割弱から積極的な効果があったとの解答があった。

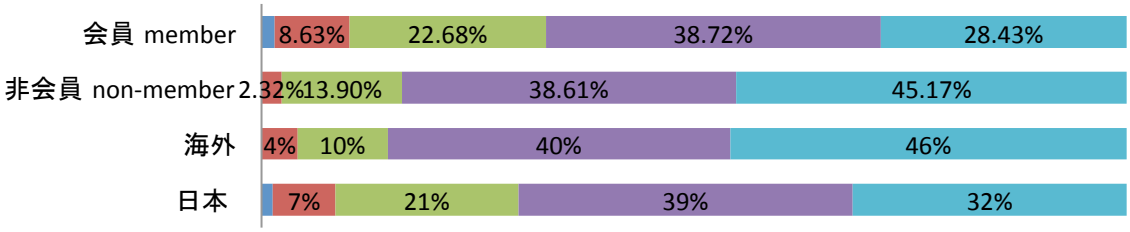


VII.　施設関連

会場・施設・サービスは概ね好評であった

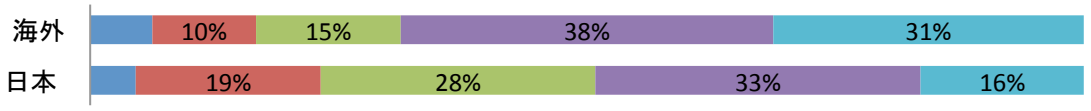
会場の広さは 9 割強が適切と評価し高評価も多かった

下図は右側に行くほど高評価である。全体的に評価された。



会場案内については海外の 84%、日本人の 77%が適切と評価した

一方案内については、2 割弱で問題点を指摘され改善の余地が残る。特に朱鷺メッセの上下階の迂回路の案内、ホテル日航への誘導等が挙げられる。外国人の方が、評価が高いのは、移動が少ないからではないかと考える。

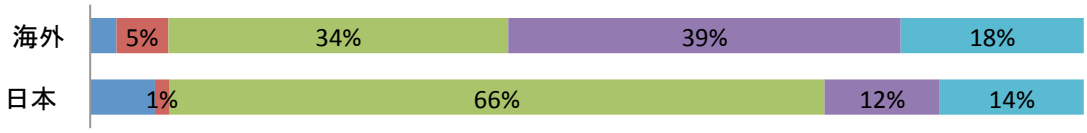


休憩場所も 8 割が適切と評価した

ドリンクサービスは 8 割が適切と評価した

ドリンクサービスは、ノンアルコールのサービスの場所の案内が不十分であった。またポスター会場でのアルコールサービスは、コメント上は賛否あったが, Positive なコメントが多かった。

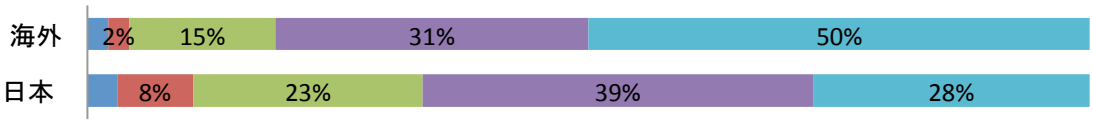
託児所サービスは満足度が低かった



その他では Wifi は好評であったが、繋がりにくいという声が多く見られた。

VII.　抄録集・連絡関連

ポッケトプログラム　抄録集は概ね好評であった

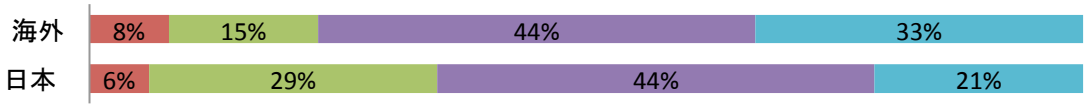


抄録集は学会誌である臨床神経学の別冊である。現在は、そのためにサテライトシンポジウム（医学生・初期研修医、メディカルスタッフセッション）の抄録は、この抄録集に記載することが出来ない。この点については、多くのご意見を頂いたが、今年は、学術大会の運営規約を変えられず、掲載できなかった。臨床神経学の著者、学術大会の筆頭演者は学会員である必要があるが、現在のサテライトシンポジウムは学会員の推薦があればよいことになっている。サテライト

シンポジウム参加者の資格、学会の中での位置づけについて規約を定め、その上で、抄録集への記載を許可するかどうかについては、今後の検討課題である。一方で同様の職種であっても高額の学会費を収めている会員もおり、同一に扱うことには問題があった。一方、海外演題の抄録は、臨床神経学に同一に扱ってのせているため、これが問題なければ、サテライトシンポジウムの演題に関しても同様に扱うことも可能とも考える、このあたりの整合性をとり、正会員との差別化を図れる規程改定が必要であり、その内容を会員に熟知してもらう必要がある。

ホームページは 9 割が許容範囲と評価した

本年は、海外参加者ために、早めに海外招聘者を選定し、顔写真と共に、HP に示した。またタイムリーな HP の更新を心掛けた。問題点としては、教育関連のテキストブックのダウンロードサイトが学術大会の HP からは最初は探せなかったことが挙げられる。事前にメールでの周知は行っているが、HP での周知も必要であった。これは大会中に改善した。教育関連企画との連携は、問題点として上げられる。

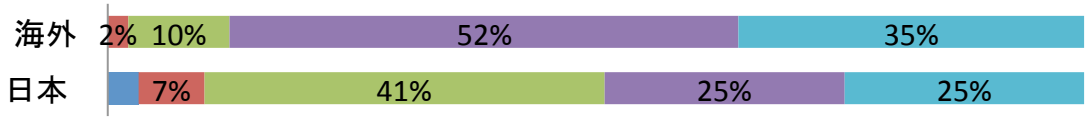


メールによる案内も 95％以上が適切。年齢による差は無かった。

メール案内は適切で丁寧であったというコメントが多く見られた。神経学会もコングレも一斉メールは HTML 型式が出来ない。そのために海外向けへの案内は、テキストのみで他の学会の案内に比して極めて貧弱である。HTML 方式のメーラーの導入について考慮すべきである。メールの世代間格差はなく、どの年代でも普及していることが窺われた。しかし、ポスター発表形式、会場内撮影禁止等の項目は、繰り返し伝えているが徹底されてなかった。強制力を必要とする事項は、メールのみではなく、欧米のように会場係による指導が必要なのかも知れない。

My　スケジュールについては改善が必要。

積極的な支持は５割で紙媒体より低い。中間評価も 41％と多い。この判定は年齢による差はなく、どの年代でもほぼ同一であった。問題点は、言語の表記が不明瞭であった点、ソフトのアップロードが遅かった点（大会２週間前）等が挙げられる。

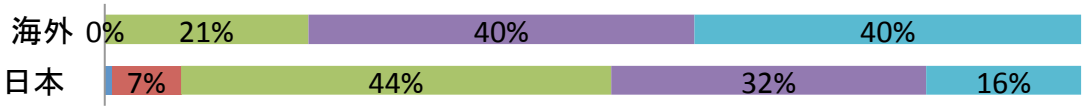


VIII.　一般演題について

口演については大きな問題なかった

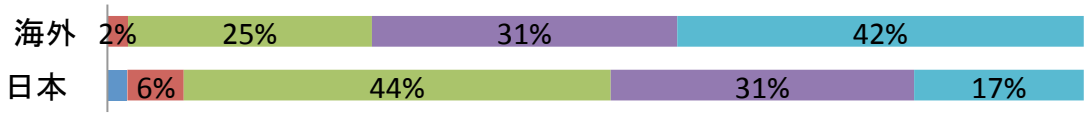
本年は、口演もミニシンポジウム方式として、海外招聘者との共同座長、学術委員への座長依頼などを行った。これらの試みたいして否定的なコメントはなかった。

抄録の締め切り日設定は許容範囲

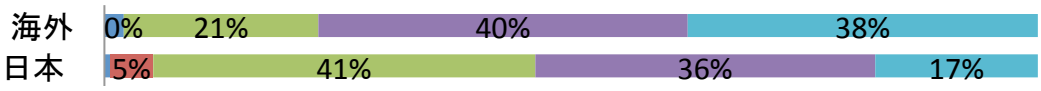


発表日の連絡方法も概ね問題なかった

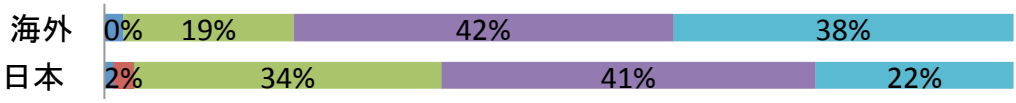
本年は一般演題の採用通知を、神経学会事務局から行った。神経学会には、個別に別々の一斉メールを出すシステムが存在しないため、本人に HP 上で確認するようにお願いした。この点は、是非一斉メール送信システムを導入し、個別メール送信方式に変更することが望ましい。



口演の発表時間もほぼ適切で年齢による差もなかった



一般演題からのシンポジウム採択は 95％以上の高い支持を得た。



本学術大会での今後の大きな論点は次の 3 点であろう。国際化、ポスターセッション、メディカルスタッフセッション。以後、最初の 2 点についてアンケート結果について述べる。

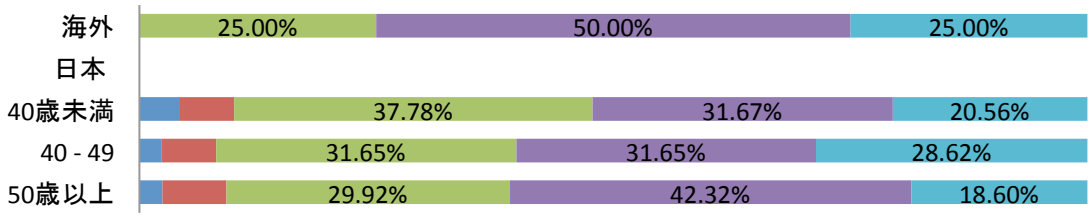
IX　国際化について

今大会では、海外 26 か国から、招聘講演者と一般参加者を合わせて 186 名が参加した。参加者確保のために、本年は、今までに AAN に演題をだしている、また臨床神経関連の雑誌に演題を出しているアジアの方々のリストを Web of science から作製し、案内の e-mail を送った。また HP で招待講演者を早々とアップし、宣伝に努めた。結果的に抄録の受付期間を延長しなくとも、一定の参加者は確保できたため、査読を日本人の演題と同じ日程で行うことが出来た。

英語セッションの比率は　全口演の 36％、ポスターセッションの 29％と推計された。言語に関しては、カテゴリー毎に言語規程を決め、また一般口演、ホットトピックスでも、英語発表を推奨した。Hot topics（最先端）はすべて英語でお願いしていたが、必ずしも徹底しきれず 50％弱に終わった。少なくとも最先端、基礎系は英語化を推進すべきである。さらに海外演題も国内演題と同様に査読を行ったため、海外演題の一般口演への取り組みも進み、一般口演の 40％強を英語とすることが出来た。

招聘した海外参加者に出来るだけ学会活動に参加していただくために、共同座長の依頼、Meet the expert への参加依頼などを行った。Meet the expert は全体的に大変好評であった。招聘した著名な方に、ご自身の口演のみならず、若手の啓発などにご尽力いただけたことは大変有意義であった。学会本体のプログラムとして考慮すべきではないかと思われる。

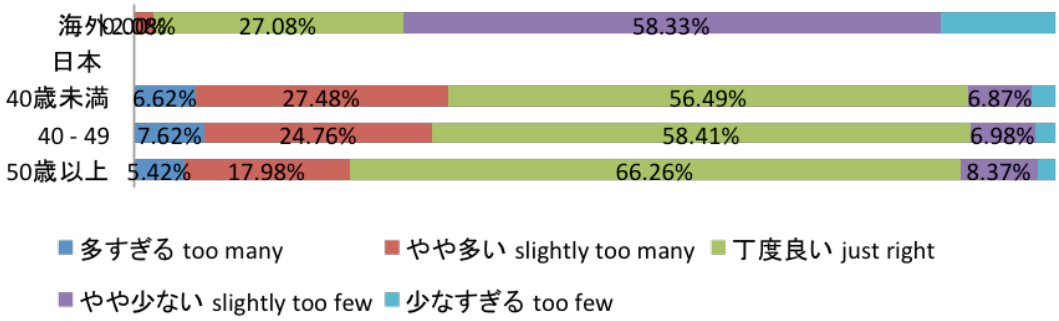
海外参加者と一緒のセッションは、概ね支持、40 歳未満で若干支持が少ない。



海外参加者と一緒のセッション設定に対しては、その年代でも 9 割程度の支持を受けた。しかし、40 歳未満の若年層で支持が低い。また、英語化への反対意見、座長の英語力の力量を問うコメントも見受けられた。また一部の国際ポスターセッションで、張ったままの、もしくは、張らなかったトラベルグラント受給者がいた。この点はトラベルグラントの受給方法について改善が必要である。

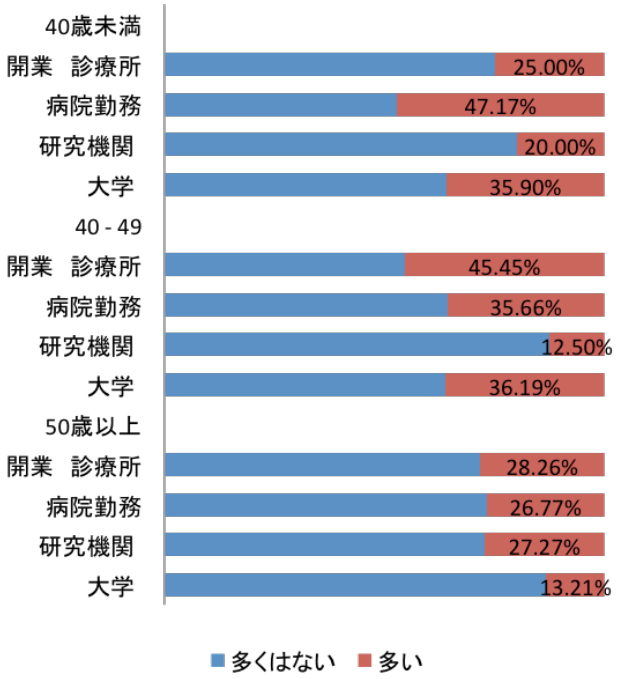
50 歳以下の 3 割が、今年の英語セッション数は多いと感じている

英語セッションの比率は　全口演の 36%、ポスターセッションの 29%であったが、実際は、英語でありながら，座長判断で日本語にしているセッションもあり、この数字よりは下と推測される。言語に関しての問い合わせは多く、多くは日本語でいいかという問い合わせであった。アンケートでは、本大会の英語演題数が多いかどうかについて質問した。まず、英語演題数について、海外参加者との間に大きな差がある。海外参加者の反応は、“まだ少ない”が圧倒的である。一方、国内参加者、特に若手は“多い”と感じている。40 歳未満の 34%が多いと感じている。この問題は、今後の国際化を図る上で大きな問題である。英語での教育講演を希望する海外参加者の意見があった。



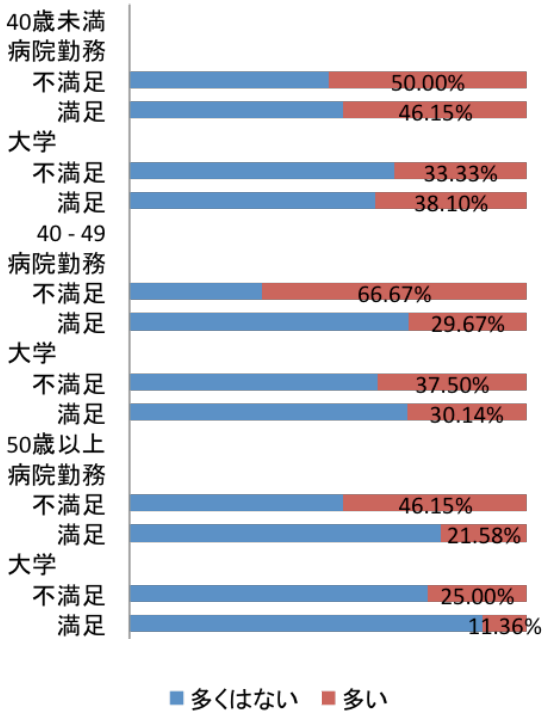
40 歳未満の病院勤務の半数は多いと感じている

次に所属機関、年齢毎に調査した（右図）。この様に、40–49 歳の中堅層では病院、大学所属ともに 35%が多いと答えている。さらに 40 歳未満の病院勤務医では実に 47%が多いと答えている。一方 50 歳以上の大学勤務医では 13%と最も少ない。



若年層のプログラムに対する低評価は英語比率に対する評価とは関係ない

この事がプログラムに対する評価に影響したかを検証するために、プログラム全体に対し、不満足であった群と、満足であった群で英語演題数に対する感じ方を比較した（右図）。



不満足が多かった 40 歳未満の群では、プログラムに対する満足度の違いで、英語比率に対する感じ方に大きな差はない。いずれの群でも病院勤務者の半数、大学所属の 35%が多いと感じている。つまり、多いと感じているが、そのことが全体の評価とは関係していない。このことから、英語比率が多いことが、若年層の低評価には繋がっていないことが示された。

病院勤務医 40 歳以上の不満足群は、英語が多いと感じている

一方、病院勤務医の 40 歳以上の群では、不満足群に、英語が多いと感じる群が明らかに多か

った。40–49 歳の層の不満足群では，6 割強で英語が多いと感じていた。病院勤務の 40 歳以上では、不満足群では、ほぼ満足群の倍の比率で英語が多いと感じている。この群では英語化が進むと，学術大会への満足度を下げる可能性がある。

英語比率については、海外参加者との認識の差異が著明で、かつ若年層に否定的見解が多いことが今後の課題である。

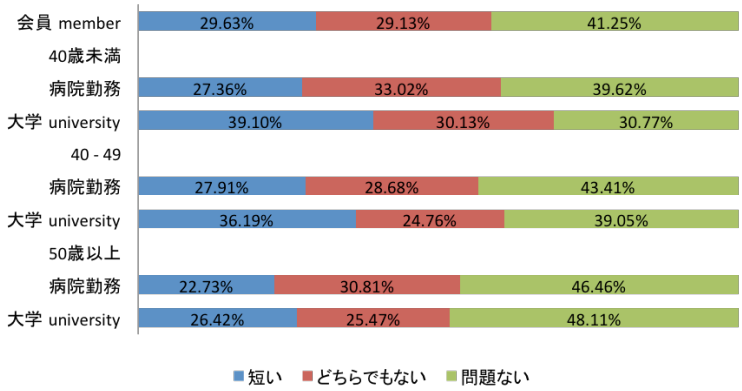
X　ポスター発表について

ポスター会場の音響などの設備は、日本人からの評価がやや低い

ポスター会場の広さについては、問題はなかった。アルコール類の提供については、賛否両論あったが、肯定的な意見も多かった．設備上の最も大きな問題点としては，声が聞こえないことが挙げられた．これはマイクなしでは聞こえないという意見が多かったが、例年のハンディマイクでも結局音が割れて聞こえていない．またその設置、人員配置の費用と、その効果を考えると、費用対効果が極めて低い．ポスターの発表型式については検討が必要である。

本年はポスター発表者が，ポスター前にいることを原則とし，ポスター演題の発表時間を短くし（2 分 30 秒），自由討論の時間を長くした。これについては 4 割からは積極的な肯定意見、3 割からは否定的意見があり、見解が分かれた．

書き込みで、改善要求の意見が最も多かったのはこの項目である．書き込まれた意見は、従来の方式に戻すというものであったが、アンケート結果からは、今年の方法も

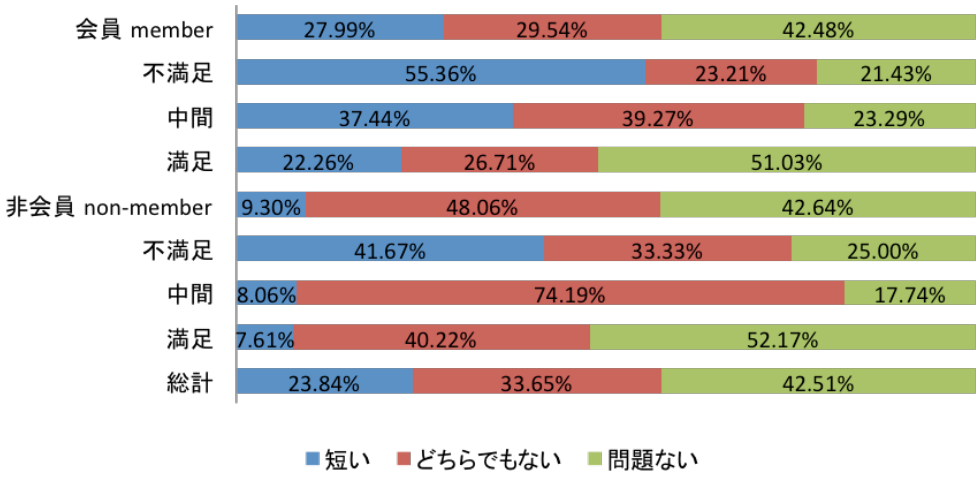


十分に支持されている．右図にあるように、全体としては会員の 7 割強が支持し、非会員では 9 割が支持した．

最も否定的な群は、50 歳以下の大学勤務医で、4 割弱が短いとしている．一方病院勤務医では、否定的な意見は、年齢を問わず 3 割弱に留まっている．40 歳未満では大学と病院所属者の間で、10％程度反応が異なり、大学勤務医の方が今年の方法について否定的である．50 歳以上では、大学でも一般病院勤務でも肯定的な意見が多く，5 割弱が適切と判断している．本方式については、病院勤務医の評価が高く、40 歳未満の大学勤務医を除けば、どの群でも、評価する群の方が評価しない群よりも多かった．40 歳未満の大学勤務医の評価が低かったのは、この群に基礎系の発表者が多かったことと関係するのかもしれない．

ポスターの評価はプログラム全体の満足度と関連する

今回の方式に対する評価と全体の満足度との関連を検討した．プログラム構成に対して不満足と答えた群の 5 割強が短いと答えている．一方，満足度が高かった群では、51％が積極的に支持、全体で 77％が本方法を支持している．

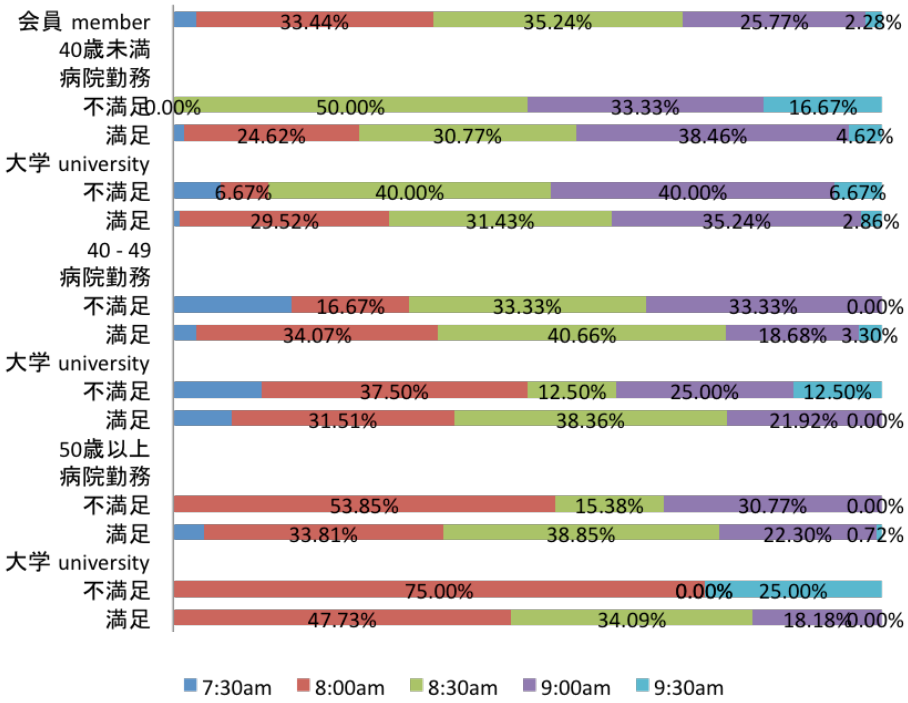


XI　学術大会の期間について

プログラムへの満足度が低い群は、遅い開始時間を支持

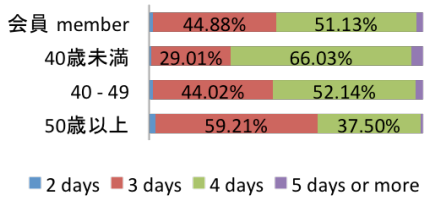
開始時間については下記の通りであるが、興味深いのは、プログラムへの満足度が低い群が、遅い開始時間を支持する傾向にあることである．最も遅い 9 時半開始（右側の水色のカラム）

を支持しているのは、いずれもプログラムに対し不満足な群に多い．つまりこの群の一部はプログラムの簡素化を期待している可能性がある．

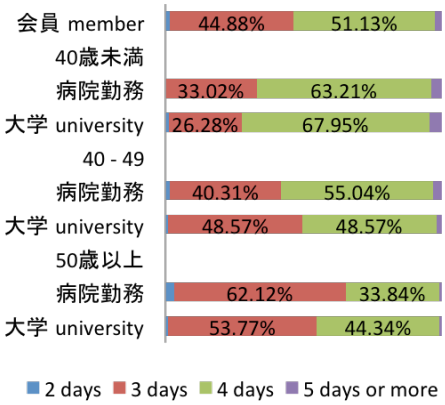


年齢が上がるにつれて、3 日間支持が多くなる

年齢毎に検討すると、現状の 4 日間を支持しているのはむしろ若年層である。年齢が上がるにつれて、3 日間支持が多くなり、50 歳以上では 6 割が 3 日間を支持している。（右図）

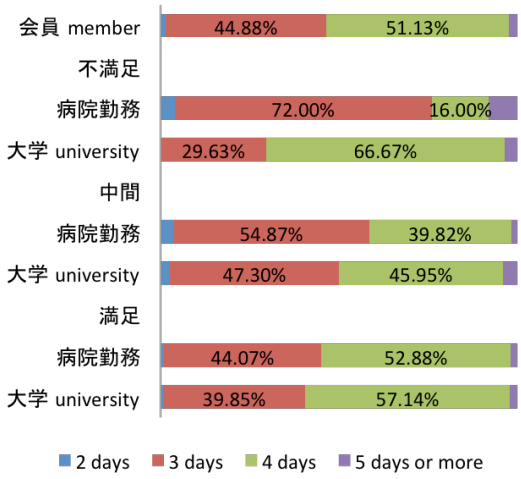


この両者の比率は大学勤務と病院勤務で大きな変化はない。50 歳以上の病院勤務医の 6 割が 3 日を支持している。大学勤務医でも、この年代層は 5 割強が 3 日を支持している。（右下）

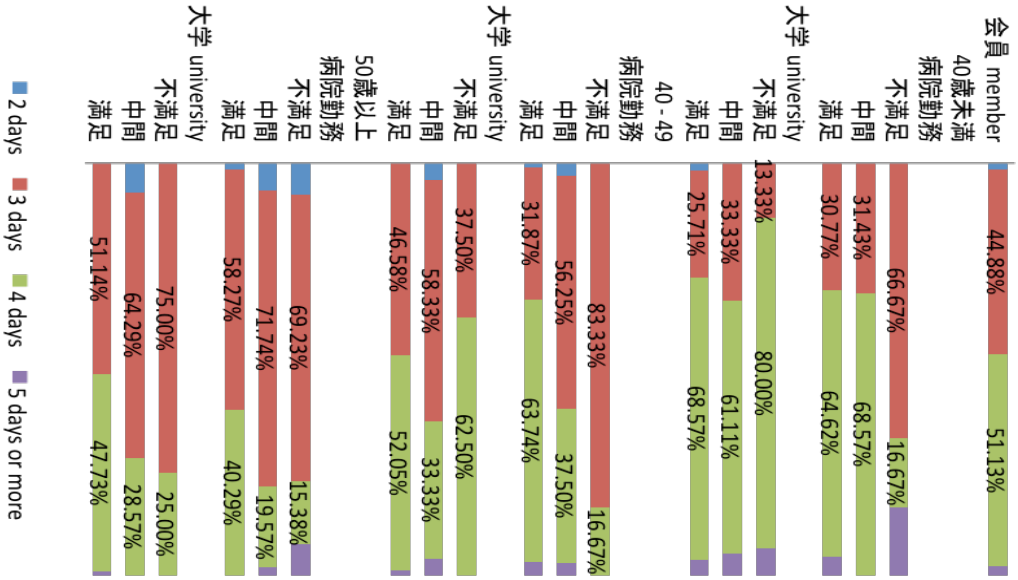


これを満足度と比較したのが次項の図である．病院勤務で不満足度が高い群では、72%が 3 日間を支持している．つまり病院勤務群では、会期が長い

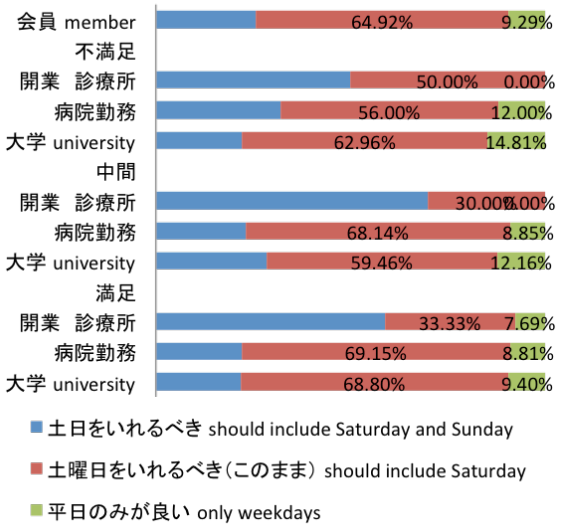
ことが満足度を下げる一因となっている．大学勤務群では、この傾向はない．しかし、4 日間であるから院内でやりくりして前半後半で参加できている実態もあり、単に短縮すると参加しづらくなる可能性もある．



これを年齢毎に解析したものが下の図となる．40–49 歳の病院勤務医の不満足群では 8 割が、40 歳以下では 7 割弱が 3 日間への短縮を望んでいる．一方大学勤務医では満足度によるこのような差がない．



曜日の設定は先に述べたように、開業医群で日曜の開催を望んでいるが、これは、特に不満足群で多いわけではない．単に会期のみではなく，テーマなど他の問題に要因がある．



XI　記述コメントまとめ

良かった点　(294 件)

- ✓ ホスピタリティー（多数）
- ✓ 会場設備（多数）
- ✓ 移動時間　スケジュール　(多数)
- ✓ テーマの内容（多数）　バランス　スポーツ　4 日間でのテーマの配分
- ✓ 社会の中の神経学　(15 件)
- ✓ ポスターセッション　(14 件)　お酒(10 件)　会場(3 件)
- ✓ コメディカルセッション (12 件)
- ✓ 英語発表の増加(9 件)
- ✓ シャトルバス(9 件)
- ✓ 事前メール連絡（8 件）
- ✓ 会長講演　(7 件)
- ✓ 教育講演　(5 件)
- ✓ マイスケジュール（4 件）
- ✓ Wi-Fi　(4 件)
- ✓ 朝のコーヒー(2 件)
- ✓ Meet the expert　(2 件)
- ✓ Facebook　(2 件)

今後改善すべき点（414 件）　赤字は特に再考

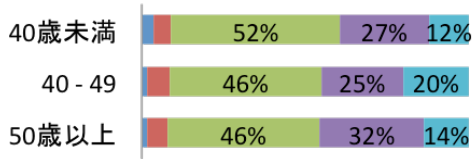
- ✓ ポスターセッション(67 件)
  - ➢ 音響（20 件）　発表時間が短い (12 件)　スケジュールが重なっている (11 件)　終了後演者が前にいない（9 件）　お酒 (3 件)　発表時間に演者がいない (3 件)　全体の時間が短い (3 件)　無断撮影 (2 件)
  - ➢ コメント　現状の発表形式と、スケジュールが重なってしまうことの問題は並立して解決できない。重なることが問題であれば、座長発表形式をやめてフリーディスカッションとする。ただしフリーディスカッション形式への抵抗は強い。音響は、毎年問題となっており、ポスター座長形式では解決することは難しい。無断撮影は今年はメールや紙媒体で周知したが、幕間スライド、会場案内でも周知する必要がある。

- ✓ メディカルスタッフ(33 件)
  - ➢ 座長をつけて欲しい（13 件）　同じ抄録集にのせて欲しい（10 件）時間を別にして欲しい（2 件）　会場を一緒にして欲しい　(6 件)
  - ➢ 抄録集の問題は、臨床神経学への掲載を可とするか。正式な会員との別をどうするかという点を解決する必要がある。
- ✓ 英語セッション(15 件)
  - ➢ 多い　(11 件)　英語セッションの集客・能力不足（4 件）
- ✓ 会場へのアクセスが悪い　(10 件)
- ✓ 全員懇親会　(9 件)
  - ➢ 会場が狭い　(2 件)　人数制限を設けない（4 件）
- ✓ Wi-Fi 接続が悪い　(5 件)
- ✓ 期間期日 (5 件)　長い　5 月は連休があるので調整が大変
- ✓ 生涯教育講演　(3 件)　日程をまとめて欲しい(2 件)　　内容公募(1 件)
- ✓ オンラインで講演をきける仕組み　(3 件)
- ✓ ポケットプログラムの字が小さい（2 件）
- ✓ 研修医セッション　(2 件)　抄録(1 件)　座長(1 件)
- ✓ レジデントトーナメントの復活　(2 件)
- ✓ 総合案内が必要
- ✓ 各 subspecialty の専門家が一堂に会するメリットを十分に活かした横断的な企画。
- ✓ subspecialty 向けではなく general neurologist 向けのプログラムを多くして欲しいです。
- ✓ 発表日時のメールでの連絡
- ✓ ネームカードの英語表記
- ✓ プレスセミナーの運営

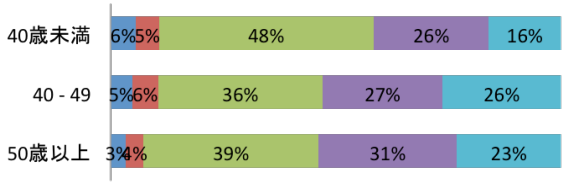
XII　サテライトセッションについて

医学生・初期研修医セッションも概ね支持を得た

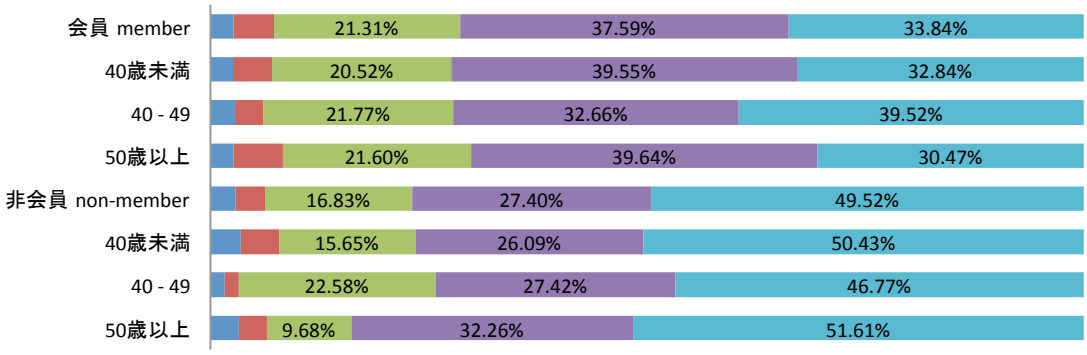
どの年代層でも約 9 割が支持している。この参加者へのトラベルグラントへの支持は高いが、50 歳以下の層で、否定的な見解が多い。



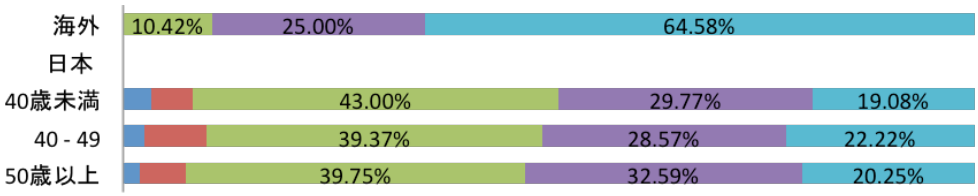
メディカルスタッフセッションは会員の 7 割の積極的な支持を得た。



特筆すべきは 40-50 歳の各診療期間の中核となっている層から 4 割の強い支持を得ている点である。



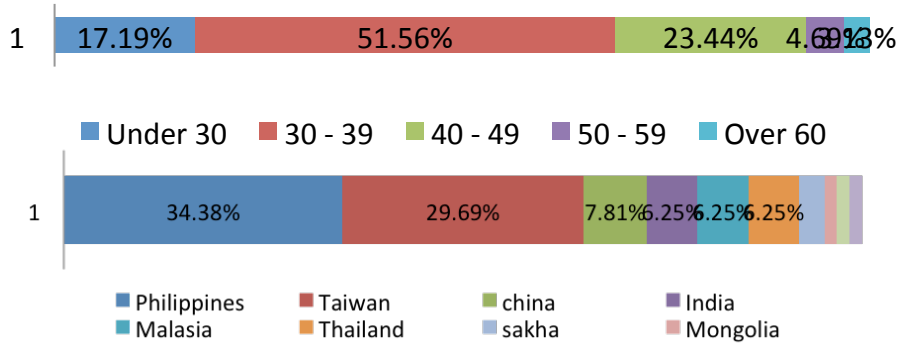
海外トラベルグラントへの積極的な支持は若年層で若干低いが約 5 割である



XIII トラベルグラント受給者からのアンケート結果

62 人から回収

年齢

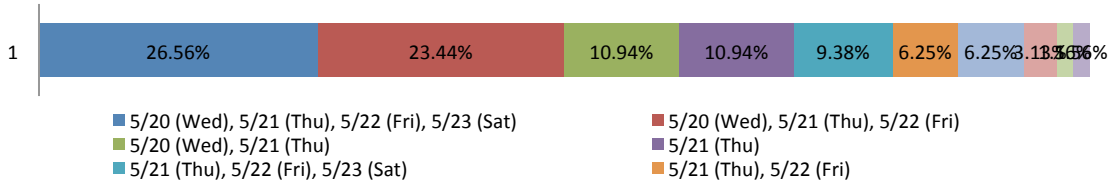


国籍

所属　　病院　64%　大学　27%　研究所　9%

参加日は 16%が 1 日のみ　20%が 2 日

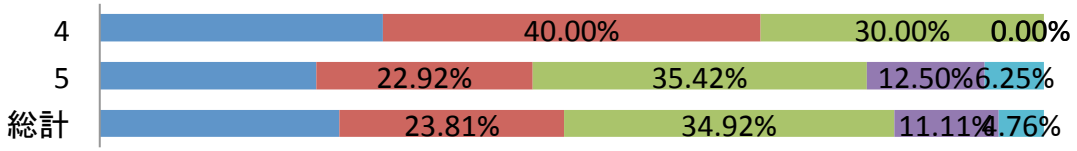
参加日程であるが、全て出席したのは全体の 26%、16%が 1 日のみ　20%が 2 日であった。



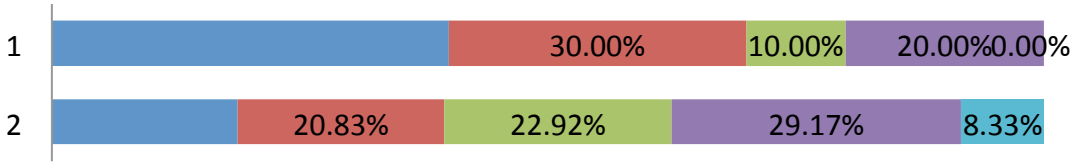
全体の 90%以上が継続しての出席を希望

しかし、トラベルグラントなしでは、この中の 16%に激減する。

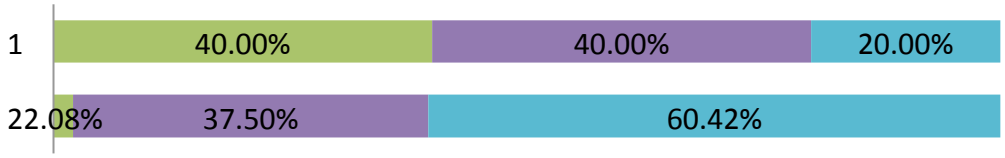
継続参加希望のある 4，5 と回答した群に対し、トラベルグラントが無かった場合を訪ねると、参加希望は激減する



半額の場合４割減となる



満足度は続けてきたいと答えた 75％群ではほぼ全員が満足、来てもいいと答えた 15％の群では６割に留まる



下記にトラベルグラント受給者からのアンケート結果について記載する

- ✓ More English education seminar or workshop for oversea participants
- ✓ Need more English sessions. The topics are very helpful but unfortunately most are in Japanese.
- ✓ "Dear organizers!　Thank you for the opportunity to participate in the conference, for grant support! I got a lot of useful information, very happy participation in the conference. The conference was held at a very high level! I wish you continued success!"
- ✓ "The amount of travel grant is appropriate.
- ✓ Thank you very much for this grant. Because income of the physicians in the public hospital in Thailand is not much enough for international conference. "
- ✓ "More English booths (journals and readings were mostly Japanese)

- ✓ Thank you very much for this wonderful opportunity!"
- ✓ "thanks to my poster chair man. He was passionate with good advises and comments. He was helpful to my ugly English speak skill."
- ✓ Such a high yield conference, however, I wish there were more English lectures
- ✓ The overall convention is great. I was able to encourage to do more research. I just have some difficulty understanding non-English topic.
- ✓ "nothing to be complained.
- ✓ It is not easy to have a local meeting combined with an international one in non-English speaking area.
- ✓ The jsn did a great job.
- ✓ It is not easy for other asian scholars to attend the meeting as everything in japan is expansive."
- ✓ I suggest having more English lecture for foreign delegates
- ✓ The meeting was very well organized and the programs useful, especially the 'meet the expert' sessions. Well done!
- ✓ "It would be great if travel grant winners from non Japanese speaking areas got access to the few English sessions that were held. Most of the tickets for these sessions ran out too fast. Even if no food was available we would have liked to sit in at the back of the said lectures because the other sessions were already in Japanese. It would be great if some practical sessions on EEG and EMG were taught in English so we could sit in those as well.
- ✓ Thank you very much for supporting our attendance to the conference! My colleagues and I learned so much from the sessions. Especially on MS and NMO spectrum disorders. Niigata is such a wonderful place to be in! It was just the right amount of cold and peaceful
- ✓ Again thank you very much! My colleagues and I from the Philippine General Hospital would not have been able to go to the conference without you generous support."
- ✓ Thanks to the Japanese Society of Neurology for kindly providing travel grant to attend the excellent JSN annual meeting. The meeting is of high scientific quality, and with many eminent speakers both from Japan or abroad, and this has facilitated useful interactions and discussions. The warmness and the hospitality of the Japanese people certainly made this conference trip a memorable one.
- ✓ I was appreciated by the chairpersons' have not seen politics among your people I

love japan

- ✓ VERY GOOD
- ✓ Full detail abstract book should be available in English as well.
- ✓ "Thank you for the opportunity to participate in the conference. This trip was informative for me and gave me a lot of positive emotions. For me it was very comfortable to be in this mysterious country. I wish you all health, happiness and success in your work! With best wishes,
- ✓ Very organized meeting. Would have liked broader scope of topics because many were on degenerative diseases and multiple sclerosis. Since we don't see many MS in our country, it was not as interesting.
- ✓ It would be great if non-Japanese speaking delegates were given passes to watch all the English sessions even without meals. The tickets to the English sessions got finished quickly.
- ✓ Will appreciate it if the lectures/sessions can have an interpreter.
- ✓ The overall convention is very successful, informative, good people, nice place ☒
- ✓ Attending the JSN annual meeting in Niigata was an exceptional experience!! I was impressed by the neat organization of the event, and the richness of the scientific content! I would be honored to participate again!
- ✓ "travel grant is useful to me. the convention is informative"
- ✓ Some difficulty was met when trying to revise submitted abstract.
- ✓ I wish there would be more English sessions since you are also catering to international and regional participants. Nevertheless, the overall meeting is a big success.
- ✓ Congratulations JSN!
- ✓ I would appreciate if English sessions could be increased.
- ✓ Great topics! Focused on neurodegenerative.

医学生初期研修医トラベルグラントアンケート結果　17 件回収

引率者からのコメント

- ✓ トラベルグラントの採用通知が遅いため、学生の出張手続きが容易ではない。よって、出来ればもっと早い時期に採択を通知してもらいたい。
- ✓ グラントでいくら支払ってもらえるかが明確でない。新幹線指定普通車で一人 25000 円かかったが、実際には 21000 円しか支払ってもらえず、差額は私のポケットマネーで補填した。予め支給される額がわかると有難い。
- ✓ ひとつの施設から何名までといった上限を設けた方がよい。"
- ✓ 医学生・初期研修医の時点から、神経内科領域の最新の知見に触れることは将来的に神経内科入局数増加につながると思います。
- ✓ "ポスターセッションでのお酒が入っての議論は単に学問ではなく神経学会のよい関係性の維持のためにも重要であり今後も続けるべきである。
- ✓ 学生の early exposure は重要であり今後も学生の参加をうながす努力が必要と思います。
- ✓ 当大学からは、研究実習で当科を選択している医学生（4 年生）2 名が、この制度を使わせていただきました。当初思っていた以上に熱心に演題を聞いていたようで、医学、特に神経学への興味と勉強の意欲という点でもモチベーションが非常に上がったようです。可能であれば、この制度を継続していただくと神経内科への入局増加につながると思います。
- ✓ "通常の臨床実習や研修では伝えられない良識について、知ってもらう良い機会だと思います。また、学会を通してコミュニケーションをはかれた部分もあった。今回トラベルグラントを利用させていただき、交通支給が大変助かりその分他のことで学生達にかけることができたのもよかった。"
- ✓ 学生セッション、ポスター発表の機会が設けられているのがよいと思いました。
- ✓ 医学生に神経学会の活動や疾患についての研究・臨床について直に触れる機会であり、漠然としたイメージが現実に変わる機会だったと思います。活発な質疑応答や最新の研究成果報告は学生の目にも刺激的に映り、おそらく将来神経内科を志望する学生の増加につながると思います。
- ✓ 発表の時間を設けてほしい。
- ✓ 学生、研修医の間から神経内科領域に興味をもってもらうことができるのでとても意義があると思います。
- ✓ 今回医学生、初期研修医の両方に参加してもらいました。学習意欲の向上につながり、勧

誘にも大変役立ちました。

以下参加した学生からのコメント

- ✓ 私は神経内科入局を考えています。クリクラで神経内科をローテしていたところ、教授から学会への御誘いをいただきました。学会参加は今回が初めてだったので神経内科の魅力がより鮮明になり、入局しようという気持ちが強くなりました。
- ✓ "講義や実習などで理解していた部分以外に沢山の症例発表やポスター展示を見聞きすることが出来、また他大学多施設での研究も深く知ることができ、とても意義がありました。更に神経内科に興味を持つことができた。もっともっと深く学びたいと思いました。
- ✓ 帯同した先生方とも普段なかなか聞けない神経内科の話をしてくださったり、交流も深めていただきました。このような機会を与えて下さり本当に有難うございました。"
- ✓ "大変貴重な経験となりました。また、グラント助かりました。有難う御座いました。"
- ✓ "学会というもの自体が初めての経験で、一年に一度しかない機会にめぐりあうことができました。教育講演ベーシックを始め、海外の有名な先生の講演まで幅広い講演をきくことができ、病気に対して病棟実習とは違う見方で考えることができました。病気の原因、症状、治療法だけでなく、より検査を容易にするための研究や薬の効果の比較、社会問題と方向は様々でした。講演だけでなくポスター、ランチョンセミナーからも学ぶことは沢山ありました。また今回衝撃を受けたのは英語が常識であることで、今後英語を積極的に学ぶ必要があると思いました。海外留学生と共に生活することもでき、英語に触れるいい機会となりました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。
- ✓ 私は、2015 年 5 月 20 日～23 日に新潟県朱鷺メッセで開かれた第 56 回日本神経学会学術大会に参加し、先生方の発表を拝聴しました。発表が始まると、どの先生の発表も、基本的な話から応用的な話までわかりやすく説明があり、私にも十分理解出来るところが多く、メモを取りながら聞き入っていました。また、質疑応答も大変活発に行われており、自分の目標として、最低一回以上質問に立つということを課していましたが、なんとか質問することが出来ました。各先生方、私の質問にも嫌な顔一つせずに答えて下さり、胸を貸してくださいました。大変貴重な経験をさせていただきました。関係各所の先生方、本当にありがとうございました。
- ✓ 学会は多くの医師・研究者が競い合い，また相互にいろいろな分野の最先端の情報を共有できる場であると実感できた．今後またこのような機会があれば，より深く積極的にかかわろうと思う．
- ✓ 今 回、5 月 20 日から 23 日の 4 日間に渡って脳神経学会に参加させてもらいました。今

回の学会はすべてがはじめてで、学会というものがどのような雰囲気で行 われてるものなのか、どのような内容が話されているのか知れる良い機会でした。学会で話された内容が教科書になったり、新しい分野として社会にでたり、学会は知識のアップデートができるところなのだと思いました。他には、発表の仕方も大切だと思いました。どんなに内容がよくても、プレゼンテーション次第では、人は興味をもたなくなってしまうというのを知れました。将来自分が話す立場になったとき、自分がどのように話せばいいかも考えさせられるいい機会でした。

- ✓ 今回 5 月 20 日から 4 日間、私は第 56 回日本神経学会学術大会に参加させていただけたので感想を述べていきたいと思います。私は今まで学会に参加した経験が無く、学会がどのような事をしている場所なのかわかっておりませんでしたが、今回幸いにも参加する機会をいただけた事で講演の内容だけでなく学会がどういったものなのかも実感する事が出来ました。
- ✓ 学会にいくのは初めてであり、貴重な経験をさせていただいた。具体的には、医学という学問がどのように進歩しているのか、また、臨床医の、研究者としての側面も見ることができ、将来の自分を知ることができた。
- ✓ この度、5 月 20 日から 22 日の 3 日間、日本神経学会学術大会に参加することができました。学会というものに参加すること自体が人生で初めてで、到着するまでどのような会なのか想像もできませんでしたが、想像以上に大きい会場で、多数の医師をはじめとする医療関係者が集い、1 年間の研究成果を発表し学びあう会の中に全日程ではないものの 3 日間も連続して身を置くことで体感したものは今後の私のキャリアにおいてとても大きかったと思います。
- ✓ このような貴重な機会をくださり、ありがとうございました。今回感じ、学んだことを活かして、今後の医学生としてまた医師となった後も努力していきたいと思います。"
- ✓ "今回このような貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。教育講演などの基本的なことから最先端の研究まで、様々な知識に触れることができ大変勉強になり、また脳、神経への興味がより一層強くなりました。学術大会で得られたことを糧に、残りの学生生活でしっかりと勉学に励みたいと思います。
- ✓ 学会には初めて参加したので良い経験になった。それと共に、聴講した講演は専門的で中々理解は難しかったが、理解できる点や新しい知見もあり勉強になった。中でも英語での講演は、今勉強している英会話の勉強のモチベーションを向上させた。"
- ✓ "大学では学べない分野を勉強できてよかった。
- ✓ 学会の雰囲気がわかって楽しかった。"
- ✓ 早い時期から学会の雰囲気を感じ、神経の分野の先端を見ることは、モチベーションにな

る上に、将来像を描きやすいと感じました。

- ✓ 早い時期から学会の雰囲気を感じ、神経の分野の先端を見ることは、モチベーションになる上に、将来像を描きやすいと感じました。
- ✓ 学会に初めて参加した学生が多く、診療実習とは異なった学術的な側面で感銘を受けている様子が伺えました。
- ✓ 「5 月 20 日から 22 日までの 3 日間、神経学会に参加しました。私は神経内科領域の基礎研究・臨床研究に関心があり、Neuroscience Frontier Symposium、Hot Topics を中心に見学しました。先生方のお話を聞いて、私も将来神経疾患の研究に携わりたいと思い至りました。この度は貴重な機会を頂き、ありがとうございました。」
- ✓ 神経内科学会では変性疾患や脳血管疾患について最新の知見を知ることができ、また学会で多くの先生方の発表を見させて頂き、大変勉強になり、また興味深く感じました。どうもありがとうございました。
- ✓ 学生のうちから学会の雰囲気に触れておくことはよい経験になるものの、学生に往復数万円に上る交通費の負担は重いため、トラベルグラントは学生の学会参加に対する敷居を下げてくれる心強い制度です。
- ✓ 学生のうちから神経学会に参加させていただき、ありがとうございます。とても貴重な経験となりました。来年もぜひ参加したいと思っていますが、学会は全国各地で行われるため、移動や宿泊を含めた旅費もかなりの額になっております。収入源のない医学生としては、会場にたどり着く事もひとつの難関であります。私は、貧富の差が、教育機会の差につながってはいけないと考えております。その点、前回、今回共にトラベルグラントが支給されたため、金銭的な心配をすること無く、研究に打ち込むことができました。若い芽を潰すことの無いよう、今後ともご配慮を頂けたらと存じます。よろしくお願い致します。
- ✓ 神経学会学術大会という栄えある学会に、学生の身分で参加しポスター発表させて頂いたこと、大変光栄に思います。先生方の研究や症例の発表も興味深いものであり、それらを拝聴することができ勉強になりました。今後も後輩達にこのような機会があってほしいので、是非来年度も学生の枠を作ってくだされば幸いです。本当にありがとうございました。
- ✓ 今回の学会は、私にとって初めての学会でした。さまざまな先生が自分のポスターに対して興味を持ってくれて質問をしてくれたときはとても嬉しかったです。また、質問だけではなく、もっとこうしたほうが分かりやすいというアドバスもいただきとても参考になりました。今回参加したことで、行かなくては分からない学会の雰囲気が分かり、他のポスターもたくさん見ることができ、さらにさまざまな先生たちとお話する機会もあり大変勉強になりました。"
- ✓ 授業などで知り得ていた以上の内容をこの学会で学ぶことが出来、また他大学での研究も

知ることができてとても有意義でした。学会への行き帰りを帯同させてもらったことで、先生方から幅広くいろんな話をして頂いたり、普段なかなか伺えないことも教えていただいたりと学術以外の部分でも学ぶことが多くありました。このような機会を与えて下さり感謝しています。

- ✓ 今どのようなことがホットトピックなのか、どのような基礎・臨床研究が行われているのかといったことを知ることができました。将来進む科を決める上で、本学会に参加して雰囲気を肌で感じることは非常に有意義な経験となりました。この度は誠に有難うございました。
- ✓ "この度はトラベルグラントという形で旅費を補助いただき、ありがとうございました。大変助かりました。学会ではどの講演も非常に興味深く、そして楽しくお聞きしました。common disease から神経難病、また脳梗塞などの急性期疾患まで扱う神経内科の幅の広さを改めて実感しましたし、今後超高齢化社会において神経疾患の患者が増加し続けること、神経変性疾患に対する治療戦略の進歩についての話などを聞き、今後神経内科が今以上に重要な診療科となっていくことを確信いたしました。この度は貴重な経験をさせていただき本当に有難うございました。"